

## 【奨 励 賞】



氏 名 廖 俊慧  
(リョウ シュンケイ)

国・地域 中国 

在日期間 5ヶ月

学 校 鹿児島大学

### タイトル : 道を探ねた時の思いやり

皆さんは異国の町で道に迷ったことがありますか。私は方向音痴ですから、グーグルマップを見ても、いつも頭の中がごちゃごちゃしてよくわかりません。だから、日本人に道を探ねることはもう日常茶飯事になりました。

ある時のことです。私は中国語交流会に参加しようと思い、鹿児島アリーナへ一人で出かけました。下荒田から中央駅までは順調に到着し、あとはバス一本。急いで乗った次のバスは、私をアリーナ、ではなく、天文館へ連れて行きました。焦った私はアリーナ行きのバスを探しましたが、天文館はバス停がいっぱいあり、どのバスに乗ればいいのかわかりません。その上、スマホの電気もなくなりそう。その時、思い切って隣の優しいお婆さんに尋ねました。

お婆さんにはっこりして、「あら、鹿児島アリーナに行くの？私もその駅を通るから、一緒にバスに乗ったらどう？着いたら教えてあげるわ。」と言ってくれました。「じゃ、お願いします。本当にありがとうございます！」やっと無事に到着できると思うと、うれしくてたまりませんでした。一方、そのお婆さんに迷惑をかけてしまうのでは、と心配になりました。しかし、それは杞憂でした。お婆さんは私を厄介者扱いするどころか、私に気まずさを感じさせないよう、気さくに話しかけてくれました。お婆さんと私の会話は、バスの種類、自分の家族、ついには恋愛話までに及びました。お婆さんは「恋人探しは、急がなくてもいいのよ。いい人に会えば幸せになるから。絶対幸せになってね。」と言ってくれました。お婆さんはいつの間にか私の心の扉を開けました。秋の温かな日差しのように、私の心を暖め、人生のアドバイスをくれたのです。たった30分ぐらい一緒にいただけでしたが、何年も前から知っている友達のように感じました。初めて会った私に情けをかけてくれたこと、本当に感動しました。

また、道を探ねた時のことです。私は日本語で道を探ねると、日本の方は、私が「ああ、外国人なんだ。」とわかります。すると、お年寄りでも誰でも、私にわかりやすいように、簡単な英語で、「レフト。レフトだよ。」「ライトです。」と教えてくれます。ただ、私がお婆さんのように日本語を話し続けると、日本の方はすぐに、英語を日本語に切り替えてく

れます。私が英語より日本語を話すことに、もっと慣れていくということに気づいたの  
かもしれません。もし私が中国で外国人に中国語で道を尋ねられたら、やはりまず、中  
国語で返事をします。日本人は相手のことを考えて、言葉を自動的に切り替えるのでし  
ょう。小さくて気づきにくいことですが、思いやりを含んでいます。些細なことだから  
こそ、もっと温かさを感じます。

以前、中国にいた時、先生たちはいつも「日本人の思いやり」ということを強調し、  
私たちに教えていました。日本に来ていろいろ体験して、思いやりの意味が深く理解でき  
るようになりました。行いはもちろんですが、心が不可欠なものです。上から目線の手助  
けではなく、相手の立場に立った手助けであり、優しい心遣いが大切なのです。

再会のチャンスがなくても、できるだけ相手の気持ちを配慮する優しさは、思いやり  
の本質なのではないでしょうか。思いやりがなければ、一期一会の美しさもなくなってし  
まうと思います。

今回、私は道に迷い、日本人のお婆さんの心遣いで「思いやり」を学びました。今後、  
日本の道だけでなく、人生の道に迷う時があるかもしれません。また、人生の道に迷っ  
た人に出会うかもしれません。そんな時、あのお婆さんのように温かい思いやりの心遣  
いを相手に届けられるように頑張ります。以上が私の鹿児島留学での貴重な経験です。  
ご清聴ありがとうございました。